

ほっと連携

◆発行／北見赤十字病院地域医療連携室 北見市北6条東2丁目1番 ◆発行責任者／吉田 茂夫
http://www.kitami.jrc.or.jp/ E-mail : renkei@kitami.jrc.or.jp

新年度 入社式に当たつての 院長挨拶



め日本を代表するカーリングの選手を出しております。また人口も北見市が11万9千人で、図書館や映画館などの娯楽施設なども一応ありますし、オホーツク全体では30万人程度で、温泉場も多く、治安もよく住みやすい所でもあります。いずれにしても北見は住めば都我が町となる良い町ですので、安心して暮らして頂きたいと思っております。

○当院が昨年80周年を迎えることが出来たのも諸先輩や北見市や地域の方々のご努力、協力として支援の賜であります。特に「人道・博愛」と言った赤十字精神が面々と受け継がれ、病院運営の基礎にあったことが大変重要でありました。先輩や地域の方々への感謝を日々忘れないようにするため、玄関横の定礎版に「感謝」の文字を書き込んでおりますので、見てください。そこで皆さんで今年度も初めに、当院の理念と基本方針を確認して、同じ方向性を持って共に進んでいきたいと考えます。先ほどお話ししたように、この理念は昔から揚げられて、80年余り続くものであります。その理念は「人道・博愛に基づき、患者様を尊重した医療を提供し、地域

○当院の立ち位置についてまずお話しします。

ご承知のように、医療を担う疾患の重症度で、一次医療(風邪や傷などの病気を担い、北見市内で完結する医療)、二次医療(脳卒中・心筋梗塞・肺炎などの入院が必要となる疾患を担う、北網二次医療圏)、三次医療(救命医療や高度専門医療を担う、オホーツク三次医療圏)という概念で行われています。当院は一昨年に創立80周年を迎えました。オホーツク地域に住む30万人の方々にとって、唯一の三次医療を担う地方センター病院であり、また二次医療を担う地域センター病院であります。そのため常に医療知識と技術の向上が求められております。まさに重症救急

患者さんや高度な専門医療の必要な患者さんにとって頼みとする病院であり、最後の砦であります。実際、当院の初診患者の紹介率は65%、70%と他の医療機関等からの紹介ですし、また当院からの他の医療機関等への逆紹介率は95%、100%と言う状況であります。従って当院の役割として、地域からの通院して下さっています患者さんへはもとより、地域の医療機関の為に医療機関としての役割がとて大きくなってきたてきております。それは長い間に諸先輩のご協力により築き上げてくれました地域の皆さまの信頼によって、このようになった病院であります。一方、患者さんを紹介して下さる医療機関は、色々な医療機関があります。僻地で小さな診療所で検査機器も少ない中で、専門外の患者さんを診て頂いて、診断が出来ないで送られてきたりしますので、上から目線で「なぜこんな病気も診断できないのか？」等とは思わないで、地方で一人診療をしている先生や職員の大変さも考えながら、紹介されてきた患者さんを適切に治して、再び地元の医療機関にもご紹介できるようにして頂きたいと思っております。くれぐれもどうぞ宜しくお願い致します。今後この地域におきましてはますます、紹介患者さんや逆紹介患者さんが多くなると思っていますので、各医療機関や介護・福祉施設とスムーズな連携を図り、地域で住む方々や医療関係者・福祉関係者が更に一層安心・安全に住み、そして働いて頂けるような地域完結型医療体制の整備に当院として努めていきますので、ご協力お願い致します。

○昨年はまだ、国がDPCのビッグデータなどを使い、医療の質に関する様々なデータを公表いたしました。当院は癌の統計データ届率や胃癌や大腸癌の5年生存率が全国、全道のそれらと比べて良い値でしたし、各種ガイドラインの遵守率や相対死亡比などにおいて大変すばらしい結果でありました。このことについては幹部会議や業務連絡会議などでスライド報告しましたが、当院の多職種の方々によるチーム医療の結果によるものと思っております。今年もまた皆さんで一層医療の質が高い医療を提供するため一人一人が専門能力向上に努めて頂くことはもとより、円滑なチーム医療を進めて頂き、更に良いものにして頂きますようお願いしております。改めてこのような結果をもたらして下さいました全ての職場での日常業務に対して敬意を表するとともに、今後とも高慢になること無く謙遜に、自己研鑽と良い職場づくりに励んで頂きますようお願いいたします。

○今回は北見市内はもとより、全国から多くの方が当院に来てくれましたので、大変嬉しく思います。ここ北見市は夏は暑く冬は寒いこともあり、また一日の寒暖差が大きいため野菜や果物が美味しいところでもあります。さらに肉などの畜産品やオホーツク海の魚介類が豊富に入る、まさに豊かな食の街です。また、北見市常呂町はカーリングの発祥地で、小笠原歩選手や本橋万里選手を始

め日本を代表するカーリングの選手を出しております。また人口も北見市が11万9千人で、図書館や映画館などの娯楽施設なども一応ありますし、オホーツク全体では30万人程度で、温泉場も多く、治安もよく住みやすい所でもあります。いずれにしても北見は住めば都我が町となる良い町ですので、安心して暮らして頂きたいと思っております。

○当院の立ち位置についてまずお話しします。

ご承知のように、医療を担う疾患の重症度で、一次医療(風邪や傷などの病気を担い、北見市内で完結する医療)、二次医療(脳卒中・心筋梗塞・肺炎などの入院が必要となる疾患を担う、北網二次医療圏)、三次医療(救命医療や高度専門医療を担う、オホーツク三次医療圏)という概念で行われています。当院は一昨年に創立80周年を迎えました。オホーツク地域に住む30万人の方々にとって、唯一の三次医療を担う地方センター病院であり、また二次医療を担う地域センター病院であります。そのため常に医療知識と技術の向上が求められております。まさに重症救急

患者さんや高度な専門医療の必要な患者さんにとって頼みとする病院であり、最後の砦であります。実際、当院の初診患者の紹介率は65%、70%と他の医療機関等からの紹介ですし、また当院からの他の医療機関等への逆紹介率は95%、100%と言う状況であります。従って当院の役割として、地域からの通院して下さっています患者さんへはもとより、地域の医療機関の為に医療機関としての役割がとて大きくなってきたてきております。それは長い間に諸先輩のご協力により築き上げてくれました地域の皆さまの信頼によって、このようになった病院であります。一方、患者さんを紹介して下さる医療機関は、色々な医療機関があります。僻地で小さな診療所で検査機器も少ない中で、専門外の患者さんを診て頂いて、診断が出来ないで送られてきたりしますので、上から目線で「なぜこんな病気も診断できないのか？」等とは思わないで、地方で一人診療をしている先生や職員の大変さも考えながら、紹介されてきた患者さんを適切に治して、再び地元の医療機関にもご紹介できるようにして頂きたいと思っております。くれぐれもどうぞ宜しくお願い致します。今後この地域におきましてはますます、紹介患者さんや逆紹介患者さんが多くなると思っていますので、各医療機関や介護・福祉施設とスムーズな連携を図り、地域で住む方々や医療関係者・福祉関係者が更に一層安心・安全に住み、そして働いて頂けるような地域完結型医療体制の整備に当院として努めていきますので、ご協力お願い致します。

○昨年はまだ、国がDPCのビッグデータなどを使い、医療の質に関する様々なデータを公表いたしました。当院は癌の統計データ届率や胃癌や大腸癌の5年生存率が全国、全道のそれらと比べて良い値でしたし、各種ガイドラインの遵守率や相対死亡比などにおいて大変すばらしい結果でありました。このことについては幹部会議や業務連絡会議などでスライド報告しましたが、当院の多職種の方々によるチーム医療の結果によるものと思っております。今年もまた皆さんで一層医療の質が高い医療を提供するため一人一人が専門能力向上に努めて頂くことはもとより、円滑なチーム医療を進めて頂き、更に良いものにして頂きますようお願いしております。改めてこのような結果をもたらして下さいました全ての職場での日常業務に対して敬意を表するとともに、今後とも高慢になること無く謙遜に、自己研鑽と良い職場づくりに励んで頂きますようお願いいたします。

和ケア、フットケア等々地域の方々も参加して頂いて会場が満員になるようなことも多々あったようです。当院の大きな役割の一つでもあります。このような研修や講演会への参加はもとより、講師をするなど啓発活動につきましても今年もまた大いに勧めて頂きますようお願い申し上げます。

○赤十字の大きな使命としての災害医療活動につきましては、先の東日本大震災、熊本地震などでの対応をして頂きましたが、今後も異常気象による災害が各地で起こることが推定されております。また北見は自然災害の少ない、台風の来ない所でしたが昨年台風が来て農林水産業に大きな被害が出ましたし、冬にオホーツク海に低気圧が数個一緒に停滞して台風並みの雨風や猛吹雪をもたらしました。熊本や糸魚川の自然災害や大規模災害など、どこでいつ災害が発生するのかわかりません。全国の赤十字の仲間と協力しながら、他方しっかりと自立して速やかに災害医療に取り組んでいく必要があります。そして赤十字病院の使命の一つとして国民から期待されている災害救護や災害派遣をいつでも出来るよう準備しておく必要があります。災害医療は我々の大きな責務でありますので、派遣される人、そして送り出す側の人も仕事量が増えますが、そのことをしっかりと肝に銘じて、普段からいつでも対応できるように心構えをそれぞれよく御願致します。

○今朝の新入職員辞令交付式においてもお話をしましたが、当院ではお互いに協力し合いながら、多様性を互いに認められた多職種のチーム医療を行って頂いております。互いに助け合う、すなわち「競争や足の引っ張り合いではなく、互いに助け合う職場の中」で良い仕事をしたいと思っております。困ったら同僚や上司に遠慮なく相談して頂き、また各自自身も相談に乗り、良い職場作りをして頂きますようお願いいたします。このことは、是非心に深く刻んで頂きたいと思っております。このような心構えでいますと「職場の中でのつまらないイジメ等」はなくなります。私はいつも「職場は楽しく、成長する場であり、イジメの無い、風通しの良い職場作り」を皆さんに願っています。しかし残念ながら人間社会においてはどこへ行っても意地悪な人や自己中心な困る人はいるものです。その

よつな人に感化されないことは勿論ですが、適切な付き合いの中で社会性を身につける一つの機会にするような気持ちで仕事をすれば問題は起こらないでしょう。繰り返しですが、職場などでのイジメ等はもつてのほかですが、どうぞ宜しく御願いたします。

○人間は失敗する存在である、ということば皆さんもよくご存じであると思います。当院も医療安全室が中心となって、失敗を繰り返さないよう、チーム対応をしています。このような病院内の失敗については、当院は皆様をしっかりと守ることにしていますので、安心して仕事をして下さい。ただ「俺が、私がそんな失敗をするわけが無い」と失敗を認められないような方もいて事態を大変難しくしていますので、そうした意味でも普段から謙虚に仕事をして頂き、事がおければ正直に連絡するなど対応して頂きますと、何も心配ありませんので、よろしく御願致します。ちなみに当院のヒヤリ・ハットや事故報告はさつちりとされていますし、また医師からの報告も多くなっております。このことは大変素晴らしいことと私は思っております。

○新しい仕事や職場が変わられた方については、その仕事を覚えるために一杯尽くして欲しいのですが、他方ワークライフバランスのとれた生活を送ることも、長い職業生活を楽しく、有意義に送る上で大切なことです。当院としては、「職員の皆さんがワークライフバランスの良い職業生活…つまり働く時は一生懸命働き、研修に参加したり、余興も充分楽しむ」そのようなメリハリのある職業生活を送ることが出来るよう、診療科にあつては主治医制では無くチーム医療の推進やフランクに自分の考えを言える風通しの良い職場作り、自己研鑽のための学会や研修会参加、あるいは夏休み、冬休みを出来るだけ皆取れるように、職場の皆で相談できるようにしていただくとともに、困ったときに互いに助け合う職場作りに努めて頂きたいと思っております。特に乳幼児を持つ女性職員等が多くなつてきていますので、それらの方が働きやすい職場作りに心がけて頂き、様々な行事にも参加できるように皆さんで配慮して頂ければ幸いです。

また、北見は車で一時間程度の近くに4つの大きな国立公園など、大自然がありますので週末などを利用して釣りやキャンプ、温泉などを楽しむと共に、今年度も職場として、様々な行事がありますので是非積極的に参加して下さい。例えば、夏には共済会主催のビールパーティーや北見盆地祭りでの舞踊パレードへの参加も楽しいですし、共済会の温泉旅行、日本ハムチーム戦の札幌ドーム応援更には全道スポーツ大会での野球やバレーボール、フットサルなどクラブ活動に積極的に参加して、普段と違う部署を超えた人間関係を楽しんで下さい。いずれにいたしましても、職員皆様のご協力によって、信頼され、働き甲斐のある良い病院を作っていきたいと思っておりますので宜しく御願致します。

平成29年4月3日



トルバプタン療法導入

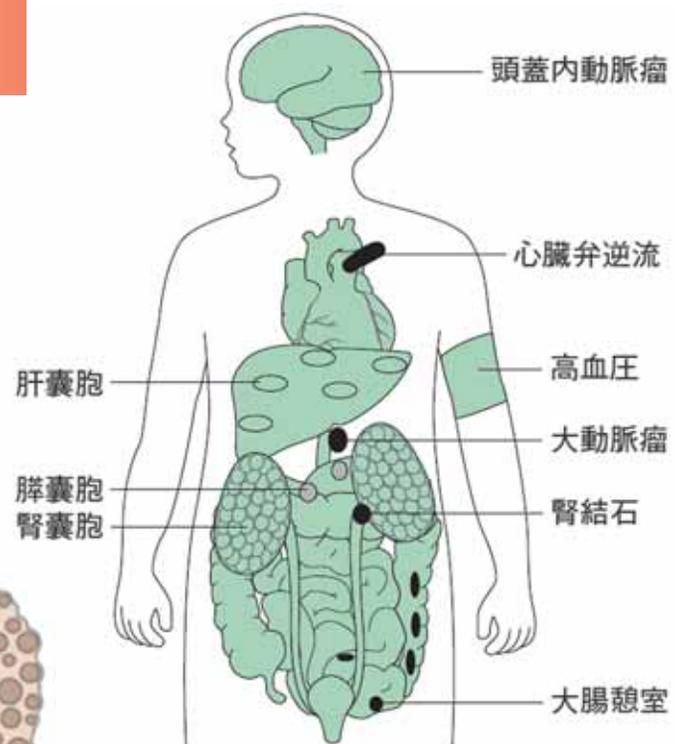
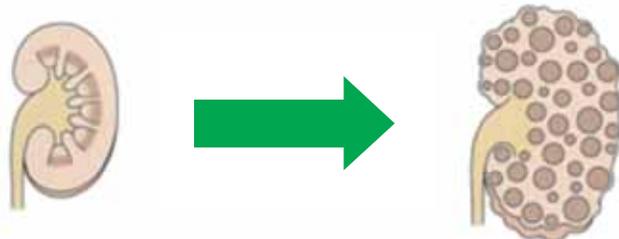
当院では遺伝性の腎疾患『常染色体優性多発性嚢（のう）胞腎』の治療を平成29年より本格的に開始しています。

この病は腎臓に嚢胞がたくさんできて腎臓が大きくなり、腎臓の動きが徐々に低下していく遺伝性の病気です。患者数は全国に約3万人といわれ、3千から4千人に1人の割合で発症し、成人期以降に診断されることが多いです。患者の約半数が70歳までに透析治療が必要となり、透析導入患者の約3%、透析導入原因の5位となっています。腎臓以外にも肝臓にたくさん嚢胞ができたり、全身の血管にも異常があつて高血圧、脳動脈瘤、心臓の弁異常が認められます。その結果、くも膜下出血の頻度が高くなります。

当院では内科・総合診療科の島田幸輝医師を中心に血圧や食事を改善するなどの従来治療に加え、新たにトルバプタン療法を取り入れ診療にあたっています。トルバプタン療法は、トルバプタンという飲み薬を使う治療法で、今までは札幌などで治療を受ける必要がありました。現在、およそ15名の患者さんが当院で治療を行っています。

この治療を受けることで腎不全を回避できる可能性があるので不安をお持ちの方は、まずは、かかりつけ医や最寄りのクリニックなどの医療機関にご相談下さい。

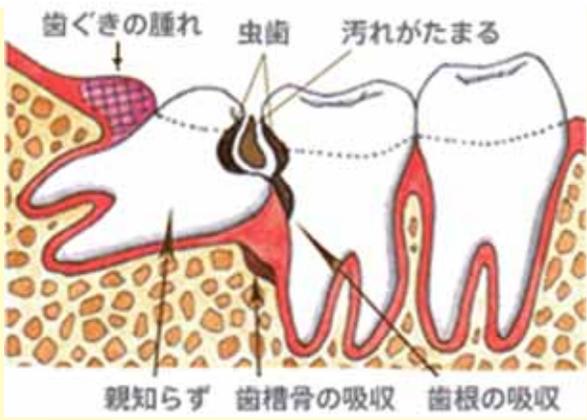
第三内科・総合診療科副部長
島田 幸輝



親知らずは萌えてますか？

第一歯科口腔外科部長 辻 学

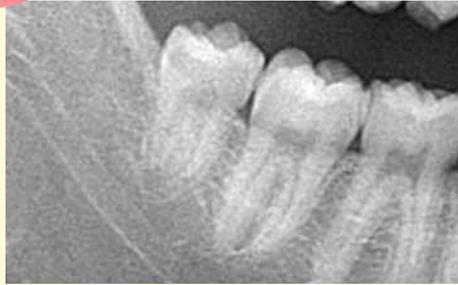
皆さん、「親知らず」という言葉を聞いたことがありますか？インターネットで「親知らず」と検索すると、関連キーワードで「抜歯」や「痛い」などが次候補として挙げられます。医学用語では「智歯」もしくは「第三大臼歯」と呼ばれ、一番奥に萌える歯の事を指します。しかし現代人の親知らずは、通常に萌えている方は少なく、横向きに萌えたり半分埋まった状態の方が多くを占めます。原因としては近代の食生活の変化による咀嚼回数減少が顎の発育に影響し、歯が萌えるスペースが足りない為起きています。歯が萌えられず、インターネット検索の結果から見ても、それだけ調べている人が多いでしょう。このような状態を放置すると、隣在歯と接触している所は虫歯になりやすく、治療も困難な状態となります。また、智歯の清掃不良が原因で周囲歯肉が腫れる「智歯周囲炎」になるとかなりの痛みを伴う事も多く、事前に抜歯をすることをお勧めいたします。当科では親知らず抜歯を行うにあたっては、外来局所麻酔下で



口腔内写真



水平埋伏状態



通常の萌出状態

本館アトリウムにて 院内ボランティア コンサートを開催

5月20日に本館1階アトリウムにて、院内ボランティアコンサートを開催しました。今回は北見室内管弦楽団の皆様による演奏で、約100名近い方が見に来て下さいました。演奏者の方々も数多く参加して頂き、滅多に観る機会の無い人数での生演奏に来場者の方々も充実した表情でコンサートに聴き入っていました。

今回の演奏では「恋するフォーチュンクッキー」等のJポップから「威風堂々」等のクラシックまで幅広い構成で、年齢・性別を問わず広く楽しむことができました。

北見室内管弦楽団のコンサートは病院移転後初めてでしたが、反響の良いアトリウム内に多数の楽器から奏でる音色が響き渡り、面会へ来ていた方々も足を止めて聞き入る姿も多く見受けられました。

当院の院内ボランティアコンサートも今回で開催82回目（病院移転後も13回）を迎えることができました。今年から年間の受け入れ件数を増やす方向で準備を整えているので、数年後には100回目のコンサートを迎えることが出来るかもしれません。

当院では今後とも院内でのコンサートを定期的に関催できればと考えています。もし地域の医療機関の皆様の中でもご協力して頂ける方がいればボランティア事務局（医療福祉課内）までご連絡いただければと思います。

診療以外の部分でも地域で活躍されている皆様との繋がりを大切に出来ればと考えております。今後とも宜しくお願い致します。

ボランティア事務局（医療福祉課 久永 聖人）



診療情報管理課の紹介

当課は2016年4月より新設された新しい課です。課員7名のうち5名が診療情報管理士です。主な業務としては、カルテやクリニカルパスの管理、疾病登録やがん登録など診療情報に関する様々な業務を担当しています。当課のスタッフが直接患者様に接する機会は少ないですが、B型肝炎ウイルス感染給付金請求訴訟等により近年増加しているカルテ開示も当課が担当し多くの患者様からの申請に対応しています。

当課の主な業務の一つであるカルテ管理ですが、当院のカルテは完全電子カルテ運用で診療情報は電子カルテ内で一元的に管理されています。紹介状などペーパーの診療記録はスキャン後に電子認証を行い電子カルテ内で保存管理されています。このような診療記録の管理は勿論ですが、委員会活動を通じてカルテの記

載内容の監査を行い記録の質の向上にも努めています。

疾病登録業務は、年間約12,000件の退院症例の疾病データや手術・処置データをデータベース化し、病院統計や各種の研究・調査等に利用されるとともに当院のホームページに疾病統計の一部を掲載しています。また、当院は「地域がん診療連携拠点病院」に指定されておりこれに伴い院内がん登録を実施しています（年間約1500件）。登録されたデータは国で集計され国立がん研究センターがん情報サービスのホームページで集計報告書が公開されています。

疾病登録やがん登録業務は、十分な知識を持って適切に登録することで正確なデータベースを構築することができるといえます。スタッフは研修などを通じて日々スキルの上昇に努めています。今後は、正確

なデータ登録とそのデータを基にした臨床指標や各種統計をさらに充実し院内外へ情報発信していきたいと考えています。



平成28年度 市民公開講座開催



平成29年3月16日18時30分より当院のミニホールにて、平成28年度市民公開講座『がんについて考える』がんと診断されたとき』を開催いたしました。

消化器内科部長の上林医師が『告知』が必要な理由、がん化学療法看護認定看護師の住田係長が、看護師がお手伝い出来ること、がん相談支援センターの堀がん相談支援係長が『がん相談支援センターへご相談下さい』と題しそれぞれ講演いたしました。

始めに上林部長が、告知の歴史、病名・病状の告知を受ける事で、自分の生活にあった、または自分らしく生きるための治療や療養の場を選択していただけるこの話があり、次に

住田係長から、告知を受ける前から受けた後の患者様やご家族の精神状況の変化や、当院で行っている看護外来を紹介し、当院に受診されている患者さんやご家族にご利用いただきたい旨の紹介をいたしました。最後に堀がん相談支援係長より、ソーシャルワーカーについての説明、がん相談支援センターの取り組みの紹介、医療費はどのくらいかかるのかの情報提供が行われ、当院の患者さんは勿論当院以外で治療、療養されている方の相談にも対応しているのががん相談支援センターです。との話がありました。

がん患者さんに、当院のスタッフが寄り添って行く体制がある旨の講演が出来たかと思えます。是非、ご活用いただければと思います。

150名にものぼる市民の方にご聴講に足を運んでいただけたと大変嬉しく、感謝しております。時間の関係上質疑応答の場を設けることが出来ず、書面にてご質問いただきました。ご連絡先の記載をいただいた方には、郵送で回答させていただきます。ご記名等のない方の質問については、当院のホームページに回答を掲載させていただきます。

沢山のご質問、ご意見ありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。今後定期的な、がんについての講演会を開催して行く予定です。是非ご聴講いただければと思います。

がん対策推進室 伊藤 智美

住田係長から、告知を受ける前から受けた後の患者様やご家族の精神状況の変化や、当院で行っている看護外来を紹介し、当院に受診されている患者さんやご家族にご利用いただきたい旨の紹介をいたしました。最後に堀がん相談支援係長より、ソーシャルワーカーについての説明、がん相談支援センターの取り組みの紹介、医療費はどのくらいかかるのかの情報提供が行われ、当院の患者さんは勿論当院以外で治療、療養されている方の相談にも対応しているのががん相談支援センターです。との話がありました。

がん患者さんに、当院のスタッフが寄り添って行く体制がある旨の講演が出来たかと思えます。是非、ご活用いただければと思います。

150名にものぼる市民の方にご聴講に足を運んでいただけたと大変嬉しく、感謝しております。時間の関係上質疑応答の場を設けることが出来ず、書面にてご質問いただきました。ご連絡先の記載をいただいた方には、郵送で回答させていただきます。ご記名等のない方の質問については、当院のホームページに回答を掲載させていただきます。

循環器内科医師ご紹介

今年度より1名増員となり、6名の医師と常時1~2名の臨床研修医が力を合わせて循環器診療を行っています。3名がカテーテル治療専門医、認定医で冠動脈、末梢血管カテーテル治療を行っています。心不全治療には急性期から終末期まで多職種からなる心不全チームで予後やQOLの改善を目指しています。月2回、月曜日に北海道大学の医師による不整脈専門外来にて不整脈、カテーテルアブレーションの適応など診療、相談を行っております。また立地を生かし道立北見病院 心臓血管外科と密に連携しています。是非、皆様と地域の患者様のお役に立ちたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

北見赤十字病院 循環器内科部長 齋藤 高彦



出身高校 函館ラ・サール
出身大学 大阪大学 (H5年)
資格 日本循環器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本心血管インターベンション学会専門医 日本プライマリケア連合学会認定医 日本心臓リハビリテーション学会指導士
趣味、特技 読書、スキー



小野 太祐 (たいたすけ)

出身高校 札幌南
出身大学 北海道大学 (H11年)
資格 日本循環器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本心血管インターベンション学会認定医
趣味など マラソン、ゴルフ、スキー



徳原 教 (さとし)

出身高校 札幌北
出身大学 旭川医科大学 (H13年)
資格 日本循環器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本心血管インターベンション学会認定医
趣味など ゴルフ、ピラティス、料理、キャンプ



本居 昂 (こう)

出身高校 立命館慶祥
出身大学 札幌医科大学 (H25年)
趣味など ゴルフ、テニス



夏井 宏征 (ひろゆき)

出身高校 小樽潮陵
出身大学 愛媛大学 (H26年)
趣味など 世界のビール



内藤正一郎 (せいいちろう)

出身高校 札幌北
出身大学 北海道大学 (H27年)
趣味など テニス、ハンドボール、世界のウィスキー

当科受診時は予約不要です。簡単に情報提供書記載し受診させてください(地域連携室経由でも結構です)。緊急時はお電話にてご連絡ください。 緊急診察依頼は 0157-24-3115 (病院代表) までお願いします。



内科医師
吉川 純平



内科医師
安田 尚史



内科医師
菅原 正成



内科医師
原田 晋平



神経精神科医師
小坂 優



神経精神科医師
早坂 郁



循環器内科医師
夏井 宏征



循環器内科医師
内藤正一郎



第二小児科副部長
越田 慎一



小児科医師
大畑 央樹



小児科医師
原 和也



小児科医師
後藤 健



第一外科副部長
京極 典憲



整形外科医師
萱場幸太郎



整形外科医師
水谷幸三郎



脳神経外科部長
木村 輝雄



皮膚科医師
林 圭



泌尿器科医師
小林 進



産婦人科医師
新開 翔太



産婦人科医師
今 沙織



眼科医師
神谷 隆行



麻酔科医師
酒井 渉



麻酔科医師
長谷川 源



麻酔科医師
重松 祐輔



第一消化器内科副部長
水島 健



消化器内科医師
古川龍太郎



消化器内科医師
中島 正人



臨床研修医
西村 弘基



臨床研修医
楨山 健太



臨床研修医
田中 亮圭



臨床研修医
藤木 佑斗



臨床研修医
沖 尚彦



臨床研修医
笹井 健吾



臨床研修医
野村 朝子



臨床研修医
山口真由子



臨床研修医
潮田 亮平

～新しい医師を
紹介しま～す～
(平成29年4月1日～)

H29年度

●内科系3診療科オープンカンファレンス
症例検討内容

題名	発表者
第1回 「不明熱を皮膚生検にて診断した一例」	内科・総合診療科 宮崎康太郎
「肝細胞がんに対するラジオ波焼灼術(RFA)について」	消化器内 佐藤 史幸
第2回 「救急外来で心室細動となったAMIの二例」	循環器内科 夏井 宏征
「消化管出血を反復するvon-Willebrand病患者に生じた抗E抗体による遅発性溶血性輸血副作用の一例」	内科・総合診療科 原田 晋平
第3回 「下腿血腫を主訴に来院した44歳女性」	内科・総合診療科 藤木 佑斗
「腹部超音波ガイド下の手技による出血」	消化器内科 中島 正人

※第3回まで終了しております。

●開催予定日表

第4回	平成29年 7月20日(木)	担当診療科 内科・総合診療科 循環器内科
第5回	平成29年 9月21日(木)	担当診療科 消化器内科 内科・総合診療科
第6回	平成29年 10月19日(木)	担当診療科 循環器内科 内科・総合診療科
第7回	平成29年 11月16日(木)	担当診療科 内科・総合診療科 消化器内科
第8回	平成30年 2月15日(木)	担当診療科 内科・総合診療科 循環器内科

●本館3階特別会議室
●午後18時30分～

～病院連携システム更新のお知らせ(再通知)～

昨年1月より連携システムの使用を一時停止させて頂き、大変ご迷惑をお掛け致しましたこと、深くお詫び申し上げます。
この度 更に個人情報安全に努めた、システムを更新いたしましたので、改めて連携システムのご利用についてご案内申し上げます。
当院では、病院連携システムにて、紹介・逆紹介の患者様に係る当院の画像・検査データを連携医療機関様から参照していただくよう、対応しています。
現在、参照可能な内容は、CT・MRI・RI・放射線科読影エコー(読影レポート)心カテの血管造影画像、内視鏡画像、検査部エコー画像、一般撮影、検査データ、投薬内容、注射内容です。
今後も、より一層スムーズな連携を目指し努力して参りますので、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

病院連携システム利用状況

- ◆やまかわウィメンズクリニック
- ◆白川整形外科内科
- ◆美幌町立国民健康保険病院
- ◆本間内科医院
- ◆藤江内科クリニック
- ◆オホーツク海病院
- ◆みやげ医院
- ◆さこう・リハビリクリニック
- ◆ひかりの耳鼻咽喉科クリニック
- ◆田中医院
- ◆木村内科小児科医院
- ◆北見西部地域訪問看護ステーション
- ◆玉川医院
- ◆北見地域訪問看護ステーション
- ◆津別病院
- ◆女満別中央病院
- ◆大空町東藻琴診療所
- ◆北見北斗病院

(地域医療連携室)

外来のご案内

診療科目

- ★内科・総合診療科 (完全予約制)
- ★消化器内科 (完全予約制)
- 神経精神科
- 循環器内科
- 小児科
- 外科
- ★整形外科
- 形成外科
- ★ペインクリニック内科
- 脳神経外科
- 皮膚科
- ★泌尿器科 (完全予約制)
- 産婦人科
- 眼科
- 頭頸部・耳鼻咽喉科
- ★放射線科
- 麻酔科
- ★歯科口腔外科

休診

- 土曜日
- 日曜日
- 祝日
- 12月29日～1月3日
- 5月1日 (日本赤十字社創立記念日)

事前予約について

紹介状を持参される患者様につきましては、患者様の受診希望日時を事前にFAXにて予約診療のお申し込みいただきますと、診察当日、待ち時間が短縮されます。ぜひご利用願います。(但し、急患の場合は各科へ直接連絡願います。)

診察カード

診察券は全科共通で使用いたします。ご来院時に必ずお持ち下さい。

保険証

健康保険証はご来院時に確認させていただいております。特に、更新・変更の際は必ずご提出下さい。



地域医療支援病院

北見赤十字病院

【理念】

人道・博愛に基づき、患者さまを尊重した医療を提供し、地域の期待と信頼に応えます。

【基本方針】

1. 真に患者本位の医療を提供する、質の高い病院を目指します。
2. 二次～三次の救急医療と高度医療の充実した病院を目指します。
3. すべての職員が成長でき、働く満足度の高い病院を目指します。
4. 健全経営を行い、医療活動を通じて地域社会に還元します。

【患者さまの権利】

1. 人間としての尊厳が守られ、公平で良質な医療を受ける権利があります。
2. 理解・納得できる十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
3. ご自分の意思で診療を選択し決定する権利があります。
4. セカンドオピニオン (他の病院・医師の意見を聞く) を受ける権利があります。
5. プライバシーを保護される権利があります。

【患者さまの責務】

1. ご本人であることを確認するために、ご自身で名前をお伝え下さい。
2. アレルギー歴、病歴等について出来るだけ正確にお伝え下さい。
3. 医療スタッフの説明を良くお聞きになり、ご理解のうえ治療や検査などの医療行為をお受け下さい。
4. 病院内では秩序を保ち、他の患者さまのご迷惑にならない様に努めて下さい。
5. 医療費は速やかにお支払い下さい。
6. 当院は臨床研修病院として、卒前・卒後研修教育を担っています、医療専門職の育成にご理解・ご協力下さい。

北見赤十字病院 診療一覽表

*都合により担当医が変更になる場合があります。

平成29年7月3日現在

診療科	月	火	水	木	金	
内科・総合診療科	午前	永嶋	大野	永嶋	永嶋	#北大血液内科 藤原(保田/古川/月1)
		大谷	島田	大谷	原田/菅原	島田
		吉田(知)	吉田(知)	吉田院長	吉田(知)	大野
		島田(新患)	安田/吉川(新患)	大野(新患)	菅原/原田(新患)	大谷(新患)
		#血液内科連携予約	北大神経内科(月1度)	#血液内科連携予約	#血液内科連携予約	北大腎内(月1)
	午後	#リウマチ・膠原病の地域医療連携予約	#栗田	#栗田	#栗田	北大腎内(月1)
		検査・処置・急病診療				
		消化器内科・腫瘍内科				
		腫瘍内科				
		肝臓外来				
循環器内科	午前	徳原	徳原(新患)	本居	徳原	小野
	午後	小野(新患)	夏井	小野	小野(新患)	小野
神経精神科	午前	新患(再来)	早坂	嶋田	小坂	交代制(嶋田/早坂/小坂)
		再来	小坂	嶋田	嶋田	嶋田
	午後	早坂	嶋田	小坂	嶋田	嶋田
小児科	午前	一般	佐藤	佐藤	植田	佐藤
		特殊	植田	菅沼	三河	菅沼
	午後	後藤	大畑	植田	原	佐藤
外科	午前	新患	京極	新田	宮谷内	松永
	午後	再来	宮谷内	松永	須永	池田
整形外科	午前	菅原	#菅原	#松盛	#中川	#菅原
	午後	菅場	菅場	菅場	菅場	菅場
形成外科	午前	手術	手術	手術	手術	手術
	午後	手術	手術	手術	手術	手術
脳神経外科	午前	藤井(予約のみ)	手術	塩谷(予約のみ)	藤井	手術
	午後	塩谷	江平	江平	江平	江平
皮膚科	午前	林	林	林	林	林
	午後	斉藤	手術/フットケア外来	斉藤	斉藤	手術
泌尿器科	午前	藤井	藤井	藤井	藤井	藤井
	午後	岩田	岩田	岩田	岩田	岩田
産婦人科	午前	根岸	水沼	岩淵	水沼	根岸
	午後	新開	今	今	新開	岩淵
眼科	午前	予約診療(神谷)	神谷	予約診療(齋藤)	出張医	神谷
	午後	齋藤	予約診療(神谷)	予約診療(齋藤)	予約診療(齋藤)	神谷
頭頸部・耳鼻咽喉科	午前	石田	和田	石田	手術	石田
	午後	予約診療	手術	手術	手術	予約診療・手術
放射線科	午前	新患	有本・山崎	有本	有本	山崎
	午後	再来	有本	有本・山崎	有本	有本・山崎
麻酔科	午前(術前診察)	酒井	新田	室内	岡崎	長谷川
	午後	荒川				荒川
緩和ケア内科・腫瘍精神科	午前(予約制)	西本	島田	新患	新患	島田
	午後(予約制)	往診	往診	西本(腫瘍精神)	西本	西本
歯科口腔外科	午前	辻	辻	辻	辻	辻
	午後	阿部	阿部	阿部	阿部	阿部

北見赤十字病院 地域医療連携室 受付時間:月曜日～金曜日 午前8:30～午後5:00迄
 TEL0120-018-299 FAX0120-018-599
 ご意見、ご要望がございましたら、地域医療連携室までお願いいたします。 E-mail:renkei@kitami.jrc.or.jp